

金子地区 施設配置（案）及び地区懇談会意見一覧



施設の再整備に伴う課題

- 〔地域に関すること〕
- 公共交通が少なく、地域内及び市街地までの移動が不便である。
 - 金子地区は住環境としては良いが、公共施設の老朽化がマイナス要素である。人を呼び込むためには魅力づくりが必要だが、公共施設もその一翼を担うことを考慮することも大切である。
- 〔施設に関すること〕
- 地区センター
- 現在の施設を活用して地区センター化を図るためには、図書館金子分館を学校と複合化することでスペースを確保することを検討する必要がある。
 - 金子公民館は、敷地の一部が借地であるため、長期的に活用するためには購入を検討する必要がある。
- 小学校・学童保育室・中学校
- 根岸に住んでいる児童は、東金子地区の新久小学校に通っている。金子地区のコミュニティと学区の整合性について検討する必要がある。
- 老人憩いの家
- 高齢者の身近なところに居場所や集える場を確保するなど、高齢者が外出する機会が減少してしまわないよう配慮する必要がある。

施設再整備に向けた提案

- 地区センター化については、行政の効率だけで進めてしまうと、他の自治体で見られるように、サービス低下などを招いてしまう場合もあるので、よくよく検討する必要がある。
- 学校を整備する際は、グラウンドの芝生化も考慮すると良い。ケガが少なくなり地表面が熱くならないなど利点が多く、あまり維持管理費もかからないと聞いている。
- 学校や公民館など施設が1か所にまとまっているため、相互の交流が図れている。施設の再整備にはこの点を考慮する必要がある。
- 地区内には市街化調整区域が多い。まちの活性化を図るのであれば、この点を見直すことも検討する必要がある。
- 保育所をきれいにすることで、地域に若い世代を呼び込むきっかけとなると考える。
- 地区の東部側は子どもが少ないため、保育所の配置は小中学校の周辺が最適ではないかと考える。
- 保育所の再整備の案として金子第二保育所を活用するとあるが、金子地区の特性を考慮して、小中学校の周辺に配置をすることのも検討してはどうか。

各施設の整備パターン（案）

施 設 名		整備パターン（案）
地区センター	金子公民館・支所・図書館	・金子公民館・支所を活用して地区センター化。 ・図書館機能は学校に複合化を検討。
小学校	金子小学校	・金子小学校を活用。複合施設として整備。
学童保育室	金子学童保育室	・2つの学童保育室を1つに統合。 ・金子小学校の整備に合わせて金子小学校に複合化。
	金子第二学童保育室	
中学校	金子中学校	・金子中学校を活用。
保育所	金子第一保育所	・2つの保育所を1つに統合。 ・金子第二保育所を活用又は新たな場所への移転も検討。
	金子第二保育所	
老人憩いの家	根岸長寿会	・利用状況を踏まえ現状維持、自治会への譲渡や除却も検討。
	花ノ木長寿会	
	下谷ヶ貫長寿会	
	南峯長寿会	
	上谷ヶ貫長寿会	
	西三ッ木長寿会	
	木蓮寺長寿会	
	寺竹長寿会	
根通り学習等供用施設		・廃止。
農村環境改善センター		・機能維持、長寿命化。
農業研修センター		・機能維持、長寿命化。

各施設の概要

施 設 名		延床面積	建築年度	築年数	構造	土地所有
地区センター	金子公民館・支所・図書館	1,401 m ²	1993（平成 5）年	24 年	RC 造	市・個人
小学校	金子小学校	4,994 m ²	1965（昭和 40）年	52 年	RC 造	市
学童保育室	金子学童保育室	109 m ²	1990（平成 2）年	27 年	S 造	市
	金子第二学童保育室	93 m ²	2016（平成 28）年	1 年	S 造	市
中学校	金子中学校	6,816 m ²	1985（昭和 60）年	32 年	RC 造	市
保育所	金子第一保育所	449 m ²	1968（昭和 43）年	49 年	RC 造	法人
	金子第二保育所	426 m ²	1970（昭和 45）年	47 年	RC 造	市
老人憩いの家	根岸長寿会	66 m ²	1982（昭和 57）年	35 年	木造	市
	花ノ木長寿会	69 m ²	1984（昭和 59）年	33 年	木造	市
	下谷ヶ貫長寿会	72 m ²	1984（昭和 59）年	33 年	木造	個人
	南峯長寿会	83 m ²	1985（昭和 60）年	32 年	木造	個人
	上谷ヶ貫長寿会	83 m ²	1990（平成 2）年	29 年	木造	個人
	西三ッ木長寿会	85 m ²	1992（平成 4）年	15 年	木造	個人
	木蓮寺長寿会	86 m ²	1993（平成 5）年	14 年	木造	市
	寺竹長寿会	84 m ²	1993（平成 5）年	14 年	木造	個人
根通り学習等供用施設		560 m ²	1969（昭和 44）年	48 年	RC 造	法人
農村環境改善センター		1,402 m ²	1986（昭和 61）年	31 年	RC 造	市
農業研修センター		550 m ²	1990（平成 2）年	27 年	S 造	個人